

「緩和ケア」という 言葉に対するモゾモゾ感

「緩和ケア」と聞くと、戦うのを諦めたようなイメージを持たれている方も多いかもしれません。正直なところ私もちよつと違和感があり、「緩和医療」「緩和治療」という呼び方の方がしっくりきますし、学会も「緩和医療学会」という名称です。

余談ですが、精神科医である私は、「心のケア」という言葉にもモゾモゾしてしまいます。本来は、脳を含む体の状態をきちんとアセスメントし治療する

「精神医療」が大前提で、「ケア」は当然ついてくるものだと考えています。緩和の分野も同様で、医療が大前提です。

この領域は、特に最近、結構戦っています。まず医療用麻薬のこと。一番古いモルヒネは200年の歴史を持ちますが、正しい使い方が科学的・医学的に確立したのはここ数十年であり、それが広く一般の医師にまで行き渡ったのはここ十余年ほど。依存などの副次的な問題を減らし、



市立函館病院
精神神経科・緩和ケア科
佐々木 史 主任医長

略歴 平成9年、北海道大学医学部卒業後、北海道大学病院、市立札幌病院、市立釧路総合病院などで勤務。令和4年より市立函館病院で勤務し、同5年1月、精神神経科・緩和ケア科主任医長に就任した。精神保健指定医、日本精神神経学会精神科専門医、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医。

予後を縮めない使い方を模索してきた結果です。さらに、より安全に使える薬や投与方法（飲むだけでなく、注射薬、貼り薬など）を開発してきました。

そもそも人が病を治そうとするのは、やりたいことをやり、大事な人と大切な時間を共有したりするためではないでしょうか。抗がん剤などの治療が人生の長さを伸ばす戦いであれば、緩和医療は人生の幅を広げる戦いであり、これらは同時進行した方が効率的に戦えます。我々も患者さんやご家族、治療を担う主治医やさまざまなスタッフと共に戦っているつもりです。痛みをより抑え、笑顔でいられる時間を多く作りたい。痛み以外にも、呼吸苦、嘔気など、辛い症状を少しでも抑える方法を、科学的・医学的に模索し続けています。今ではその方法が、がん治療だけでなく、心不全や慢性呼吸器疾患、神経難病といったほかの領域にも用いられるようになってきました。

病を持ってしまった際は、戦友候補の一人として「緩和」も思い出しただければ幸いです。



市立函館病院 函館市港町1-10-1 ☎0138-43-2000(代) <https://www.hospital.hakodate.hokkaido.jp/>

■診療科目 / 消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器外科、心臓血管外科、精神神経科など全30科目
■外来診療受付時間 / 8:30~11:30、午後は予約患者のみ ※診療科によって異なるので詳しくは問い合わせ
■休診日 / 土・日曜、祝日
■がん相談支援センター開設時間 / 8:30~17:00(土・日曜、祝日を除く、内線3289)
■なんでも相談コーナー開設時間 / 8:30~17:15(土・日曜、祝日を除く、内線4112)

